第19回通常総会

2013 年 3 月 14 日（木）

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第19回通常総会次第

日時　2013年3月14 日(木) 13時40分～14時40分

会場　名古屋大学 東山キャンパス IB大講義室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2012年度論文賞, 第18回年次大会優秀賞の表彰
4. 議長選出
5. 2012年度事業報告
6. 2012年度決算報告, 監査報告
7. 2013年度事業計画 提案
8. 2013年度予算計画 提案
9. 2013年度評議員構成
10. 2013年度役員構成
11. その他
12. 閉会

以上

2012年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要活動として論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました.「自然言語処理」に関しては, 通常号と共に特集号を企画・発行しました.

第 18 回年次大会は, 2012 年 3 月 13 日(火)から 16 日(金)まで, 広島市立大学で開催しました. 初日のチュートリアル講演資料集の申し込みは 351 件, 期間全体の参加者総数は 680 名超で, 例年通り活気ある大会となりました.

若手研究者への支援活動として, シンポジウムを主催しました. シンポジウムは,「NLP 若手の会第 7 回シンポジウム」と題して, 9/3-9/4 に東北大学で開催しました.

また, 以下の会議を共催または協賛いたしました.

1) 第7回ロボット聴覚システム HARK 講習会 (協賛)
　　名古屋大学 2012 年 3 月 9 日
2) 第 3 回産業日本語研究会・シンポジウム (共催)
　　東京大学 2012 年 2 月 29 日

2. 会員現況 (2012 年 12 月 13 日現在, 増減は 2011 年12月 16 日との比較)

正会員	781 名 (+2)
学生会員	148 名 (+5)
賛助会員	11 組織 (-2), 12 口 (-2)
特殊購読会員	42 組織 (+1), 49 口 (+2)

3. 会誌の発行

19巻1号(2012年3月発行, 通巻83号)
　巻頭言, 論文1編, 技術資料1編, 会告
19巻2号(2012年7月発行, 通巻84号)
　巻頭言, 論文2編, 会告
19巻3号(2012年9月発行, 通巻85号)
　巻頭言, 論文4編, 会告
19巻4号(2012年12月発行, 通巻86号)
　巻頭言, 論文4編, 会告
19巻5号(2012年12月発行, 通巻87号)
　巻頭言, 論文4編, 会告

4. 第 18 回年次大会の開催

◇ 開催日: 2012 年 3 月 13 日(火)～3 月 16 日(金)
◇ 会場: 広島市立大学 (広島市安佐南区大塚東 3 丁目 4 番 1 号)
◇ プログラム:

[チュートリアル講演] (4 件) 3 月 13 日(火)

「大規模言語資源時代の意味談話処理」
　乾健太郎 (東北大学)
「統計的機械翻訳の最先端」
　渡辺太郎 (NICT)

「ネットワークと機械学習」
　鹿島久嗣（東京大学）
「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』による日本語研究の展開」
　山崎誠（国立国語研究所）

［招待講演］ 3 月 15 日（木）
Patrick Pantel（Microsoft Research）
「Active Objects: An Entity-Centric Search Experience」
市川熹（早稲田大学人間科学学術院教授）
「障害者・高齢者と対話のことば」

［一般発表　講演発表］　3 月 14 日（水）～16 日（金）　発表件数　187 件

［一般発表　ポスター発表］3 月 14 日（水）ー16 日（金）　発表件数　114 件

［併設ワークショップ］ なし

(1)チュートリアル
今回のチュートリアル講演では，講師の皆様のご理解とご協力を得て，USTREAM によるライブ配信を実現しました．多数の聴講がありました．

(2)テーマセッション
文系と理系の枠を越えた議論を目的として 11 回大会から設けられています．今回は以下の4つのテーマを設けました．

1： コーパス日本語学―その期待と可能性
2： 文書の作成/校正支援
3： 災害時における言語情報処理
4：Twitter と言語処理 2012

いずれのセッションにおいても，活発な議論が交わされました．

(4)招待講演
米国の Microsoft Research から Patrick Pantel 氏と，早稲田大学人間科学学術院教授の市川熹氏をお招きし，Pantel 氏には，「Active Objects: An Entity-Centric Search Experience」，市川氏には「障害者・高齢者と対話のことば」という題目でご講演いただきました．

(5)ワークショップ
併設ワークショップには応募がなく，本年は開催されませんでした．

◇　年次大会優秀賞
言語処理学会年次大会優秀賞は，年次大会において，論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です．また，優秀賞のうち特に優れたものがあれば，最優秀賞として選定されます．優秀賞の件数は全発表件数の約 2%を目途とする規定になっており，今大会でもこれに基づいて選定を進めました．今回の年次大会では 340 件の発表がありましたので，授賞件数は 6～7 件を目安としました．

今大会から，賞の名称がこれまでの「（最）優秀発表賞」から「（最）優秀賞」に変更されました．大会賞は，発表の良し悪しだけではなく，発表と論文を含む総合的な表彰であることが変更の主な理由です．

前回大会に引き続き，少人数の選考委員会を組織し，慎重な議論を重ねた上で選定を行いました．各授賞論文には議論で合意された授賞理由が付記されます．（授賞理由・最終選考委員名等，詳細はニュースレターをご覧下さい）

第 18 回言語処理学会年次大会優秀賞

■最優秀賞(1 件)
C4-5 シンボル細分化を適用した階層 Pitman-Yor 過程に基づく木置換文法獲得法と構文解析への応用
進藤裕之(NTT), 宮尾祐介(NII), 藤野昭典, 永田昌明(NTT)

■優秀賞(4 件)
A4-2 流言情報クラウド:人間の発信した訂正情報の抽出による流言収集
宮部真衣(東大), 梅島彩奈, 灘本明代(甲南大), 荒牧英治(東大)
B1-4 線形関数とプラトー割込による幼児語彙発達のモデル化
南泰浩, 小林哲生, 杉山弘晃(NTT)
C5-3 Web 上のひらがな交じり文に頑健な形態素解析
工藤拓, 市川宙, David Talbot, 賀沢秀人(Google)
D1-7 大規模世界知識を用いた仮説推論による談話解析の課題と対策
井之上直也, 乾健太郎(東北大), Ekaterina Ovchinnikova, Jerry R. Hobbs(USC/ISI)

◇ まとめ
第 18 回大会は過去最高の 340 件の口頭・ポスター発表がありました. また参加者も 680 名と東京から遠い地方大会としては非常に多くの参加者があり, 例年どおり活気のある大会となりました. ご参加いただいた皆様, また直接大会の運営・企画にご尽力いただいた実行委員会, 広島市立大学の関係者の皆様, プログラム委員会の皆様に厚くお礼を申し上げます. また, 大会への協賛を10企業様より, それ以外に4企業様より広告によるご支援をいただきました. 幅広いご支援に心より感謝します.
年次大会は本学会会員にとって極めて重要な情報発信・交換の場となっており, 今後も会員みんなで育てていく必要があると思います. ご意見, ご批判, ご提案などありましたら, 今大会あるいは次回大会のプログラム委員会, 実行委員会にお寄せいただければ幸いです.

5. ニュースレターの発行
2012 年には, ニュースレター Vol.19 No.1 – No.4 の 4 号を発行し, 学会運営, 大会案内, 大会優秀賞, 論文賞などについて, 会員への情報提供を行いました. これらのバックナンバーは学会ホームページでも公開しております.

6. 理事会の会議
計 6 回の理事会を開催し, 入退会会員の承認, 新任評議員の承認, 事業計画, 予算, 論文賞選考, 学会誌査読方式, 年次大会の方針, 年次大会優秀賞, 関連学会等への協賛等について審議し決定しました. また, 会費納入や学会誌作成, ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました. その他, 余裕が生まれた活動資金を有効に利用する方法について議論しました.
理事会開催:
第 84 回 (2012 年 3 月 14 日, 広島市立大学)
第 85 回 (2012 年 4 月 23 日, 国立情報学研究所)
第 86 回 (2012 年 6 月 19 日, 国立情報学研究所)
第 87 回 (2012 年 9 月 10 日, 国立情報学研究所)
第 88 回 (2012 年 10 月 19 日, 国立情報学研究所)
第 89 回 (2012 年 12 月 18 日, 国立情報学研究所)

7. 編集委員会

◇編集委員会の会議

2012 年中に臨時も含め 5 回の編集委員会を開催し，自然言語処理に掲載する論文の審議をするとともに，査読の公正性・客観性の改善，採否決定の一層の迅速化および論文誌の投稿促進に努めるため，下記の施策を実施いたしました. 2012 年 9 月には，任期満了となる編集委員 5 名の退任に伴い，新たに 5 名の編集委員が就任し，担当編集委員権限を強化した 19 名の編集委員体制で並列査読に臨んでおります.

編集委員会開催:

第 80 回（2012 年 3 月 8 日　国立情報学研究所）
第 81 回（2012 年 6 月 22 日　国立情報学研究所）
第 82 回（2012 年 7 月 24 日　臨時編集委員会 国立情報学研究所）
第 83 回（2012 年 9 月 14 日　国立情報学研究所）
第 84 回（2012 年 12 月 17 日　国立情報学研究所）

- 別刷り費用削減キャンペーン
  標記キャンペーンを実施し，2012 年 4 月～2013 年 3 月に採録された論文について別刷り費用の上限を論文のページ数にかかわらず一律 3 万円としました.
- メイル審議による論文採否承認プロセスの導入
  2012 年 7 月より論文採否の決定を原則一週間程度のメイル審議とする運用を開始しました.
- 論文賞制度のリニューアル
  論文賞を会員にとって更に魅力的なものとするとともに，積極的な論文投稿を促すために，2012 年度より受賞率を現行の3倍程度にし，賞金 10 万円の最優秀論文賞を新設しました. また，各受賞論文の第一著者を翌年 3 月の年次大会へ招待し，招待論文としてプレナリーセッションで講演してもらうこととしました.
- 原稿執筆案内の改定
  2012 年 9 月に原稿執筆案内を改定し，「コーパス，辞書などの言語資源の設計・構築法，評価法に関する研究・開発成果であり，この分野の発展に貢献するもの」を新たに論文として定義するとともに，技術資料についても記述された情報の有用性に重みを置くことで，論文と技術資料の違いを明確化しました.
- 「自然言語処理」査読要領の改定
  2012 年 9 月に「自然言語処理」査読要領を改定し，担当編集委員の権限を強化するとともに，従来よりも一層有益なフィードバックを投稿者に提供できるよう，合わせて査読フォームを改善しました.
- ニュースレター企画記事：国際会議参加報告
  会員サービスの一環として主要な国際会議への参加報告をニュースレターおよび Web で配信することとしました. 今年度は以下の記事を配信しました.
  Vol. 19 No. 3「NAACL-HLT 2012 参加報告」
- 英文校正サービス
  2013 年 3 月号以降の掲載論文について全論文のタイトルと概要の英文校正ならびに英文論文の本文の英文校正を行なうことを決定しました.

◇英文論文アーカイブ（IMT）への論文掲載

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしての IMT（Information and Media Technologies）の第 7 巻に英語論文 2 件を提供することとしました.

◇2012 年度論文賞の選考

2012 年 9 月の論文賞制度のリニューアル（2012 年 7 月の臨時編集委員会で提案し，理事会で承認）に基づき，2012 年に出版された自然言語処理 19 巻 1 号から 5 号に掲載された論文 15 件から相応しい論文を推薦することを目標として，期間中の各号に掲載された論文のうち，査読点数が 5 点満点で 4 点以上の論文 5 件を対象に，以下の手続きで候補論文の選考を行いました．

(1) 5 件の論文を 1 から 5 の選択肢とし，選考対象論文の著者を除く編集委員の全員が，全論文を読んだ上で各自1票投票しました．投票は過半数の投票者で有効とし，投票率89％で締め切りました．
(2) 高得点を得た上位 3 件の論文を論文賞候補とし，うち最多得票数の論文 1 件を最優秀論文賞候補に推薦することに決しました．

（最優秀論文賞）
タイトル：「言い換えと逆翻字を用いた片仮名複合名詞の分割」
著者：鍜治 伸裕，喜連川 優
発行号頁：Vol.19 No.2 pp.65-88

（論文賞）
タイトル：「テキストの表層情報と潜在情報を利用した適合性フィードバック」
著者：原島 純，黒橋 禎夫
発行号頁：Vol.19 No.3 pp.121-142

（論文賞）
タイトル：「小規模誤りデータからの日本語学習者作文の助詞誤り訂正」
著者：今村 賢治，齋藤 邦子，貞光 九月，西川 仁
発行号頁：Vol.19 No.5 pp.381-400

◇自然言語処理の電子化

創刊号から 2008 年度までの本誌の全件が，JST の電子アーカイブ事業により無償で電子化され JST のサイト Journal@rchive で公開されています．また，2009 年度以降の本誌も，上記 Journal@rchive と一体的に運営されている J-STAGE で公開されており，新規に出版されたものは三ヶ月後に電子化され公開されます．すなわち，現在，創刊号から，紙媒体で出版後三ヶ月経過した号まで，常時，電子的に閲覧可能となっております．

◇査読迅速化施策の効果

- メイル審議導入（2012 年 7 月～）による迅速化
  採録の場合で平均 10 日，返戻の場合で平均 18 日，それぞれ短縮化されています．
- 2011 年以前から 2012 年以降の迅速化
  採録の場合で平均 67 日，返戻の場合で平均 31 日，それぞれ短縮化されています．
- 担当編集委員権限強化（査読要領・査読フォーム改定）による迅速化
  No.959 論文以降，採録の場合で平均 111 日，返戻の場合で平均 48 日，合計で平均 69 日，それぞれ短縮化されています．
- 査読者への図書カード進呈施策による査読迅速化
  昨年度とほぼ同水準の 80%の査読者が一ヶ月以内に査読を完了しています．

8. 活性化基金

余裕が生まれた活動資金を有効利用として，本年度は，次の4件の施策を実施しました．

（1） 過去の年次大会発表論文集の電子化

これまでのすべての年次大会の発表論文集の電子化を行ないました．2012 年度中には

公開できませんでしたが，2013 年度中に公開を予定しています．

(2) 学生会員の会費の割引

時限措置として，学生会員の会費(4000 円)を半額(2000 円)に割引しました．学生会員 64 名に適用しました．なお，学生会員の数は，143 名（2011 年 12 月）から 148 名（2012 年 12 月）に変化しました．

(3) 論文誌別刷代の割引

2012 年 4 月から 2013 年 3 月に採録された論文について論文誌の別刷代を一律 3 万円に割引しました．14 編の論文に対して適用しました．3 月までに 9 編程度の論文に対して適用する見込みです．

(4) 論文誌の活性化

掲載が決定した論文誌の英語論文に対する英語校正を，希望者に対して無料で実施する施策を開始しました．

なお，今後の予算の透明性を確保するために，年度末に 1510 万円を一般会計から切り離し，特別会計「活性化基金」を設置しました．来年度以降の施策は，この会計からの支出に基づいて実施する予定です．

以上

言語処理学会一般会計2012年度決算報告書

自 平成24年1月1日　～　至12月31日

勘定科目		予算金額(円)	決算金額(円)	備考
大科目	小科目			
収入科目	個人会費	5,600,000	5,014,000	正会員@8,000×429名 過年度分@8,000×197.75名
		380,000	260,000	学生会員@2,000×64名 過年度分@4,000×33名 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、学生会員会費を割り引く
	賛助会員	750,000	450,000	1口¥50,000×9口
	特殊購読費	500,000	490,000	10,000*49件
	別刷り代	1,000,000	355,000	19巻1号～5号 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、別刷り代を割り引く
	第18回年次大会収入	4,250,000	5,294,660	
	広告料	120,000	80,000	18巻4号～19巻3号
	雑誌頒布収入	200,000	105,000	
	雑収入	20,000	5,623	著作権使用料、受け取り利息他
	小　計	**12,820,000**	**12,054,283**	
	前年度繰越収支差額	33,025,550	33,025,550	
	収入合計	45,845,550	45,079,833	
支出科目	論文誌印刷配送費	4,000,000	2,390,369	19巻1号～5号 印刷費￥1,959,825/配送料￥430,544
	論文誌編集費	1,200,000	877,905	組版代19巻1号～5号
	編集委員会/会議費	600,000	876,718	会合費、旅費、査読謝礼（図書カード）
	編集事務局費	280,000	345,000	編集事務局謝金（1月～12月分、特集号編集作業費）
	業務委託費	1,900,500	1,900,500	中西印刷㈱委託費　MMBシステム料金を含む
	通信費	150,000	122,180	
	第18回年次大会開催費	4,250,000	4,730,551	第18回支出￥4,710,251　第19回打合交通費￥20,300
	年次大会運営サポート費	1,050,000	1,050,000	第18回向け作業(前年10月-3月) ¥525,000 第19回向け作業(4月-9月) ¥525,000
	特殊購読・雑誌頒布経費	300,000	249,143	特殊購読及び雑誌頒布事務手数料
	会誌電子化費用	100,000	84,000	19巻1号～5号分J-STAGEへのアップロード費用
	会費集金費	250,000	321,211	
	年次大会資料電子化	1,300,000	1,274,700	第1回～第10回年次大会資料 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策
	論文誌の活性化	800,000	0	招待論文・依頼原稿、デザイン変更など ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策
	諸経費	950,000	704,186	大会優秀賞関連費、若手の会シンポジウム補助金、ホームページ関連費用
	小　計	17,130,500	14,926,463	
	特別会計支出 (活性化基金)	13,620,000	15,097,300	学会の活性化と会員サービス向上のための施策の総額¥17,000,000より、2012年度施策の学生会員割引(¥2,000x64名)と別刷り代割引(¥500,000)による収入減と、年次大会資料電子化(¥1,274,700)、論文誌の活性化(¥0)の支出増を差し引いた金額
	合　計	**30,750,500**	**30,023,763**	
	次年度繰越収支差額	15,095,050	15,056,070	
	支出合計	45,845,550	45,079,833	

言語処理学会特別会計
決算報告書
自 平成24年1月1日 ～ 至12月31日

(単位：円)

勘定科目		決算金額（円）	備考
大科目	小科目		
収入科目	一般会計から繰り入れ	15,097,300	
	合計	15,097,300	
	前年度繰越収支差額	0	
	収入合計	15,097,300	
支出科目	一般会計へ繰入	0	
	合　計	0	
	次年度繰越収支差額	15,097,300	
	支出合計	15,097,300	

言語処理学会一般会計・特別会計
平成24年度貸借対照表
平成24年12月31日現在（単位：円）

借 方（資 産）		貸方（負 債・資 本）	
銀行預金I （三井住友銀行平城支店）	4,829,387	次年度繰越金*1	15,056,070
銀行預金II （三菱東京UFJ銀行自由が丘駅前支店）	10,256,683	前受け会費*2	30,000
活性化基金	15,097,300	次年度繰越金	15,097,300
合 計	30,183,370	合 計	30,183,370

*1 決算報告書の次年度繰越金と同額
*2 前受け会費は学生会員4000円入金者分（15名分）

言語処理学会一般会計2012年度決算報告書
自 平成24年1月1日 ～ 至12月31日

勘定科目 大科目	勘定科目 小科目	決算金額(円)	備考
収入科目	個人会費	5,014,000	正会員@8,000×429名 過年度分@8,000×197.75名
		260,000	学生会員@2,000×64名 過年度分@4,000×33名 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、学生会員会費を割り引く
	賛助会員	450,000	1口¥50,000×9口
	特殊購読費	490,000	10,000*49件
	別刷り代	355,000	19巻1号～5号 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、別刷り代を割り引く
	第18回年次大会収入	5,294,660	
	広告料	80,000	18巻4号～19巻3号
	雑誌頒布収入	105,000	
	雑収入	5,623	著作権使用料、受け取り利息他
	小計	12,054,283	
	前年度繰越収支差額	33,025,550	
	収入合計	45,079,833	
支出科目	論文誌印刷配送費	2,390,369	19巻1号～5号 印刷費¥1,959,825/配送料¥430,544
	論文誌編集費	877,905	組版代19巻1号～5号
	編集委員会/会議費	876,718	会合費、旅費、査読謝礼（図書カード）
	編集事務局費	345,000	編集事務局謝金（1月～12月分、特集号編集作業費）
	業務委託費	1,900,500	中西印刷㈱委託費　MMBシステム料金を含む
	通信費	122,180	
	第18回年次大会開催費	4,730,551	第18回支出¥4,710,251　第19回打合交通費¥20,300
	年次大会運営サポート費	1,050,000	第18回向け作業（前年10月-3月）¥525,000 第19回向け作業（4月-9月）¥525,000
	特殊購読・雑誌頒布経費	249,143	特殊購読及び雑誌頒布事務手数料
	会誌電子化費用	84,000	19巻1号～5号分J-STAGEへのアップロード費用
	会費集金費	321,211	
	年次大会資料電子化	1,274,700	第1回～第10回年次大会資料 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策
	論文誌の活性化	0	招待論文・依頼原稿、デザイン変更など ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策
	諸経費	704,186	大会優秀賞関連費、若手の会シンポジウム補助金、ホームページ関連費用
	小計	14,926,463	
	特別会計支出（活性化基金）	15,097,300	学会の活性化と会員サービス向上のための施策の総額¥17,000,000より、2012年度施策の学生会員割引(¥2,000x64名)と別刷り代割引(¥500,000)による収入減と、年次大会資料電子化(¥1,274,700)、論文誌の活性化(¥0)の支出増を差し引いた金額
	合計	30,023,763	
	次年度繰越収支差額	15,056,070	
	支出合計	45,079,833	

●上記の通り報告いたします。

言語処理学会財務理事　田口大悟　印

●監査の結果、上記の結果に相違ありません。

言語処理学会　監　事　斎藤博昭　印

言語処理学会　監　事　浦谷則好　印

平成 25 年 2 月 19 日

言語処理学会特別会計
決算報告書
自　平成24年1月1日　～　至12月31日

（単位：円）

勘定科目		決算金額（円）	備考
大科目	小科目		
収入科目	一般会計から繰り入れ	15,097,300	
	合計	15,097,300	
	前年度繰越収支差額	0	
	収入合計	15,097,300	
支出科目	一般会計へ繰入	0	
	合　計	0	
	次年度繰越収支差額	15,097,300	
	支出合計	15,097,300	

●上記の通り報告いたします。

言語処理学会財務理事　田口大悟　印

●監査の結果、上記の結果に相違ありません。

言語処理学会　監　事　斎藤博昭　印

言語処理学会　監　事　浦谷則好　印

平成　25　年　2　月　19　日

2013年度事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要な活動として，論文誌「自然言語処理」を定期的に発行するほか，特集号の企画・発行を行い，年次大会を開催します．また，これらの論文誌や年次大会で発表された研究の内容を広く内外に流通させるとともに，会員の自然言語処理の研究発表を支援することも本学会の重要な役割と考え，活動を進めて参ります．

研究発表を支援する活動としては，昨年同様，若手の会が企画したシンポジウムの支援を行います．また，国際交流に関しては，いままで，特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力を行ってきました．今年度も予算の許す範囲で，このような研究活動の支援を継続して実施します．

当学会では，収益の拡大と節約を旨とする皆様のご努力により，活動資金に余裕が生まれてきました．今後は，会費の引き下げや，年次大会におけるプログラム委員長および大会実行委員長の負荷軽減などについても検討し，収支のバランスのとれた学会運営を目指していく予定です．具体的な施策については，「6．学会の活性化と会員サービス向上のための施策」で説明します．

2. 会誌の発行

◇第 20 巻第 1 号(2013 年 3 月中旬発行予定，通巻 88 号)
◇第 20 巻第 2 号(2013 年 6 月中旬発行予定，通巻 89 号)
◇第 20 巻第 3 号(2013 年 9 月中旬発行予定，通巻 90 号)
◇第 20 巻第 4 号(2013 年 12 月中旬発行予定，通巻 91 号)

以上の通常号のほか，特集号「災害情報と言語処理」を予定しています．

3. 第19回年次大会の開催

日時: 2012年3月12日(火)～3月15日(金)
会場: 名古屋大学
3月12日(火) チュートリアル (10:30～15:00)
3月13日(水) 本会議 第1日 (10:00～18:20)
　オープニング (10:00～10:30)
　招待講演 (10:30～11:30)
3月14日(木) 本会議 第2日 (9:00～18:00)
　総会 (13:40～14:40)
　招待講演 (15:00～16:00)
　懇親会 (19:00～21:00)
3月15日(金) 本会議 第3日 (9:00～17:00)

4. ニュースレターの発行

原則として，前年と同様の回数と内容で発行する計画です．学会メーリングリストを通じて配布します．これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します．

5. 会議

◇総会

通常総会を2013年3月の年次大会で開催します．

◇理事会

昨年度同様に4ー6回程度開催します．予算のゆとりを会員に還元する施策・事業，論文等の電子的公開，年次大会の開催，他学会との連携などについて審議します．

◇評議員会

総会に合わせて2013年度第1回会合を開催します．学会全体の活動の活性化に向けた施策，関連する研究分野との交流の促進などについて議論します．

◇編集委員会

編集委員会は年 4 回開催しつつ，メールによって迅速な論文審査を目指して運営します．また，英文論文の増加施策や論文推薦制度など会誌をより活性化する手法を精力的に検討していきます．また，査読管理の電子ツールの導入の是非も検討を続けていきます．

6. 学会の活性化と会員サービス向上のための施策

特別会計「活性化基金」からの支出に基づき，次の施策を実施します．

（1） 学生会員の会費割引（予算 30 万円）

学生会員の会費(4000 円)を半額(2000 円)に割引する時限措置を本年度も継続します．

（2） 論文誌別刷代の割引（予算 100 万円）

論文誌の別刷代を一律 3 万円に割引することを継続します．

（3） 論文誌の活性化（予算:80 万円）

掲載が決定した論文誌の英語論文に対する無料の英語校正を継続して実施します．また，招待論文等，論文誌の活性化を検討します．

（4） 年次大会のチュートリアルの無料化（予算:100 万円）

これまで別料金を徴収していた年次大会のチュートリアルを，大会参加費のみで参加（聴講）できるようにします．これを実施するために必要な減収分を，年次大会に補助します．

（5） 国際会議の支援（最大 200 万円）

10 月 12 日から 15 日にかけて名古屋で開催される IJCNLP-2013 に対する財政支援を実施します．

7. 20周年記念事業

本学会が 2014 年 4 月 1 日に 20 周年を迎えるにあたり，その記念事業を企画します．2012 年 12 月 13 日の理事会にて，理事会内に 20 周年記念事業委員会を立ち上げて，同事業の具体化の検討に入りました．構成員は，相澤，菊井，小原，白井，田口，隅田の各理事です．現在， 2014 年秋頃に記念行事となるシンポジウムの開催，2014 年 3 月の年次大会内での記念公演や記念セッションの開催，2014 年度内に「20 周年記念論文賞」，「論文投稿無料化・電子化」，「日本語論文の英語化」，「会誌よりインパクトのある論文を集めた本の出版」などの記念事業を検討しています．今後，編集委員会や年次大会関係者とともに詳細化を進めます．

8. 推薦論文制度の導入

論文投稿の活性化を促すために推薦論文制度を導入します．これは，国際会議や研究会などで発表された論文の中で編集委員が高く評価したものについて，その編集委員が編集委員会に推薦し，編集委員会から当該論文の著者にその論文を元にして論文誌への投稿を促す通知をする制度です．推薦された論文が投稿された場合は，一般の投稿論文と同じ査読プロセスによって査読をおこないますが，論文を推薦した編集委員が担当編集委員をすることとします．

言語処理学会2013年年度会計予算（案）（自2013.1.1～至2013.12.31）

勘定科目		金額(円)	備考
大科目	小科目		
収入科目	個人会費	6,240,000	正会員@8,000×680名 過年度分@8,000×100名
		300,000	学生会員@2,000×120名 過年度分@2,000×30名 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、学生会員の会費を割引
	賛助会員	600,000	1口¥50,000×12口
	特殊購読費	500,000	
	別刷り代	500,000	20巻1～5号 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、別刷り代を割引
	第19回年次大会収入	4,400,000	※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、チュートリアル無料化
	広告料	120,000	19巻4号～20巻4号
	雑誌頒布収入	100,000	
	雑収入	10,000	著作権使用料、受け取り利息他
	小計	12,770,000	
	特別会計取り崩し (活性化基金)	5,300,000	学生会員割引(¥300,000),別刷代補助(¥1,000,000),第19回年次大会補助(¥1,000,000),論文誌活性化(¥800,000),国際会議支援(¥2,000,000),20周年イベント準備(¥200,000)
	合　計	18,070,000	
	前年度繰越収支差額	15,056,070	
	収入合計	33,126,070	
支出科目	論文誌印刷配送費	3,000,000	20巻1号～6号 印刷費￥2,400,000/配送料￥600,000
	論文誌編集費	1,000,000	組版代
	編集委員会/会議費	900,000	会合費、旅費、査読謝礼（図書カード）
	編集事務局費	300,000	編集事務局謝金
	総務事務局費	60,000	総務事務局謝金
	業務委託費	1,900,500	中西印刷㈱委託費e-nafシステム料金を含む
	通信費	150,000	
	第19回年次大会開催費	5,400,000	
	年次大会運営サポート費	1,050,000	第19回向け作業(前年10月-3月) ¥525,000 第20回向け作業(4月-9月) ¥525,000
	特殊購読・雑誌頒布経費	250,000	特殊購読及び雑誌頒布事務手数料
	会誌電子化費用	100,000	20巻J-STAGEへのアップロード費用
	会費集金費	400,000	
	国内開催の国際会議支援	2,000,000	名古屋開催のIJCNLP-2013を最大¥2,000,000補助 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策(2013年度)
	論文誌の活性化	800,000	英語論文に対する英語校正無料サービス他 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策(2013年度)
	20周年イベント準備	200,000	会合費、旅費他 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策(2013年度)
	諸経費	950,000	大会優秀賞関連費、若手の会シンポジウム補助金、ホームページ関連費用
	合計	18,460,500	
	次年度繰越収支差額	14,665,570	
	支出合計	33,126,070	

言語処理学会2013年度特別会計（活性化基金）予算（案）（自2013.1.1～至2013.12.31）

勘 定 科 目		金額	備考
大科目	小科目		
収入科目			
	合計	0	
	前年度繰越収支差額	15,097,300	
	収入合計	15,097,300	
支出科目	一般会計へ繰入	5,300,000	
	合　計	5,300,000	
	次年度繰越収支差額	9,797,300	
	支出合計	15,097,300	

8. 2013年度評議員構成

2010－2013年度評議員		2012－2015年度評議員	
神門 典子	国立情報学研究所	奥村 学	東京工業大学
安藤 真一	日本電気株式会社	江原 暉将	山梨英和大学
村田 真樹	鳥取大学	青野 雅樹	豊橋技術科学大学
大野 将樹	電気通信大学	竹内 和広	大阪電気通信大学
山本 幹雄	筑波大学	井形 伸之	富士通株式会社
二宮 崇	愛媛大学	延澤 志保	東京都市大学
木村 泰知	小樽商科大学	下畑 さより	沖電気工業株式会社
佐々木 裕	学豊田工業大	木戸 冬子	東京大学
藤井 敦	東京工業大学	鈴木 久美	マイクロソフト
冨浦 洋一	九州大学	宮尾 祐介	国立情報学研究所
桝井 文人	北見工業大学	野本 忠司	国文学研究資料館
坂原 茂	東京大学	岩山 真	株式会社日立製作所
荻野 紫穂	日本アイ・ビー・エム株式会社	松尾 義博	日本電信電話株式会社
秋葉 泰弘	日本電信電話株式会社	木下 聡	株式会社東芝
神崎 享子	国立国語研究所	橋本 力	情報通信研究機構
佐良木 昌	日本大学	賀沢 秀人	Google
柴田 勝征	学福岡大		
増市 博	富士ゼロックス株式会社		
計18名		計16名	

9. 2013年度役員構成

役員名	氏名	所属
会長	中岩 浩巳	日本電信電話株式会社
副会長 (総編集長兼務)	隅田 英一郎	情報通信研究機構
理事 (編集委員長)	徳永 健伸	東京工業大学
理事(編集担当)	乾 健太郎	東北大学
理事(編集担当)	山崎 誠	国立国語研究所
理事(編集担当)	相澤 彰子	国立情報学研究所
理事(事業担当)	佐藤 理史	名古屋大学
理事(事業担当)	菊井 玄一郎	岡山県立大学
理事(事業/渉外担当)	颯々野 学	ヤフー株式会社
理事(渉外担当)	関根 聡	ニューヨーク大学/楽天株式会社
理事(渉外担当)	小原 京子	慶應義塾大学
理事(財務担当)	田口 大悟	日本電気株式会社
理事(財務担当)	赤峯 享	日本電気株式会社
理事(総務担当)	白井 清昭	北陸先端科学技術大学院大学
理事(総務担当)	宇津呂 武仁	筑波大学
		(以上15名)
監事	浦谷 則好	東京工芸大学
監事	斉藤 博昭	慶應義塾大学
		(以上2名)
顧問	長尾 眞	京都大学名誉教授
顧問	飯田 仁	東京工科大学
顧問	辻井 潤一	マイクロソフトリサーチアジア
顧問	島津 明	北陸先端科学技術大学院大学
顧問	中川 裕志	東京大学
顧問	石崎 俊	慶應義塾大学
顧問	橋田 浩一	産業技術総合研究所
		(以上7名)

会誌編集委員会2012－2013年度		
総編集長	隅田 英一郎	情報通信研究機構
編集委員長	徳永 健伸	東京工業大学